

令和7年8月20日

恵庭市議会議長

川原 光男 様

会 派 名 自由民主党議員団 翡翠会

代表者氏名 小橋 薫 印



政務活動費研究研修結果報告書

恵庭市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、当派の令和7年度研究研修結果について、次のとおり報告します。

記

1 研究研修期間 令和7年7月22日から令和7年7月24日まで(3日間)

2 内 容

研究研修名	7月22日 和木町とENEOSの「地域コンソーシアム」について 7月23日 丸亀市市民活動センター「マルタス」について 7月24日 中心市街地の再生を図る坂出市の「公民連携事業(PFI)」について
研究研修会場	7月22日 和木町役場 7月23日 丸亀市役所 7月24日 坂出市役所
参加人数	6名 (小橋薫・川原光男・長谷文子・早坂政芳・矢野浩章・三上まどか)
研修内容	各地での研修内容については別紙のとおり

(研究研修資料/別紙のとおり)



令和7年8月20日

自由民主党 翡翠会 行政視察報告書

* 報告者

会長 小橋 薫

* 視察研修参加議員名

小橋薫、川原光男、長谷文子、早坂政芳、矢野浩章、
三上まどか 計6名

* 視察研修日程

令和7年7月22日（火）～7月24日（木）の2泊3日

* 視察研修項目

7月22日（火） 山口県和木町

（和木町と ENEOS の「地域コンソシアム」について）

7月23日（水） 香川県丸亀市

（丸亀市市民活動センター「マルタス」について）

7月24日（木） 香川県坂出市

（中心市街地の再生を図る坂出市の

「公民連携事業(PFI)」について）

視察研修先・山口県和木町

視察研修項目・和木町と ENEOS の「地域コンソ・シウム」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等

緑の風薫る
文化のまち和木町

WAKI

和木町 住民サービス課

課長 上村 克司

〒740-8501
山口県玖珂郡和木町和木1丁目1番1号
TEL (0827) 52-2194 FAX (0827) 52-7277
E-mail kuemura@town.waki.lg.jp

緑の力で発電



麻里布製油所 需給管理グループ

大山 隆

博士(工学)

〒740-0061 山口県玖珂郡和木町和木6-1-1

TEL 0827-30-9445(直通) TEL 0827-24-6104(代表)

FAX 0827-24-6157

oyama.takashi@eneos.com

www.eneos.co.jp

和木町役場住民サービス課

環境衛生係

係長 岡田 理

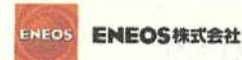
〒740-8501

山口県玖珂郡和木町和木1-1-1

TEL : 0827-52-2194

MAIL : o.okada@town.waki.lg.jp

緑の風薫る文化のまち和木町



麻里布製油所 総務グループ

坂辻 界斗

〒740-0061 山口県玖珂郡和木町和木6-1-1

TEL 0827-24-6133(代表) TEL 0827-30-9164(直通)

FAX 0827-30-9184

sakatsujikaiko@eneos.com

www.eneos.co.jp



(ニードルコークスの現物)



地元和木町とともに社会貢献したい

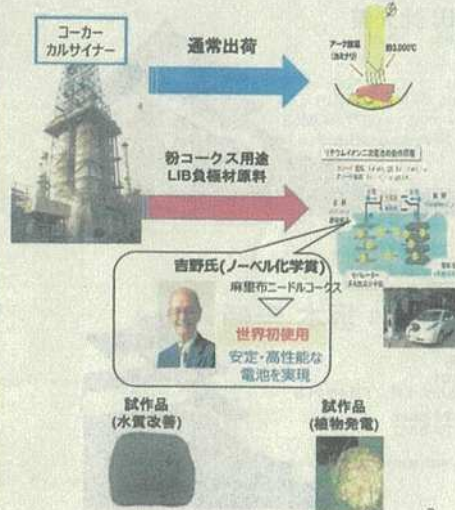
和木町

ENEOS(株)麻里布製油所

豊かな自然環境がある



ENEOS Corporation



地域コンソーシアムの活動

分類	項目	備考
水質・底質 改善剤	あさり漁場再生実証テスト	親子へのアサリと環境体験教育 将来は、一般の潮干狩りをめざす
	用水路の悪臭対策	2件目の悪臭対策
	藻場創造実証テスト	海藻の生育調査
	下水道管劣化対策実証テスト	硫化水素の無害化調査
植物発電	無電源照明の実証化	社会貢献度のアンケート調査
	植物発電の基礎研究	薔薇の発電量調査
教育	植物発電設置の実体験 (ワークショップ)	体験教育と無電源照明の鑑賞
	小中学生、住民への環境教育	和木小中学校とフェスティバルで講義
展示 イベント	浄化剤と植物発電の仕組み	住民へのパネルの展示
	水槽での浄化剤の比較実験	メダカ、レンコン、稲の育成
	植物発電機器の展示	わき愛あいフェスティバル
	地域おこし動画の作成	地域おこし協力隊の協力

視察研修先・香川県丸亀市

視察研修項目・丸亀市市民活動センター「マルタス」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等

協働推進部 地域づくり課

丸亀市 MARUGAME CITY

課長 吉田 比夫美
Yoshida Hikumi

丸亀市役所
〒763-8501
香川県丸亀市大手町二丁目4番21号
Tel.0877-24-8853 Fax.0877-24-8863
E-mail: chiki-3@city.marugame.kagawa.jp




丸亀市 MARUGAME CITY

議会議務局

副主任 坂本 圭輔

丸亀市役所
〒763-8501
香川県丸亀市大手町二丁目4番21号
Tel. 0877-24-8828
Fax. 0877-24-8867
E-mail: gikai@city.marugame.kagawa.jp



協働推進部 地域づくり課

副課長 東 潤

丸亀市役所
〒763-8501
香川県丸亀市大手町二丁目4番21号
Tel.0877-24-8853 Fax.0877-24-8863
E-mail: chiki-k@city.marugame.lg.jp

丸亀市 MARUGAME CITY

協働推進部 地域づくり課

直江 麻紀

丸亀市役所
〒763-8501
香川県丸亀市大手町二丁目4番21号
Tel. 0877-24-8853
Fax. 0877-24-8863
E-mail: kyodo-1@city.marugame.lg.jp



CCC

森山 一樹

丸亀市民活動交流センター マルタス
センター長

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
〒763-0034
香川県丸亀市大手町二丁目4番11号

Phone: 0877-24-8877
Facsimile: 0877-85-6535
E-mail: Kazuki.Moriyama@ccc.co.jp

丸亀市 MARUGAME CITY

協働推進部 地域づくり課

主任 松永 吉弘

丸亀市役所
〒763-8501
香川県丸亀市大手町二丁目4番21号
Tel.0877-24-8853 Fax.0877-24-8863
E-mail: kyodo-1@city.marugame.lg.jp



CCC

森口 海生

丸亀市民活動交流センター マルタス
副センター長

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
〒763-0034
香川県丸亀市大手町二丁目4番11号

Phone: 0877-24-8877
Phone: 095-5915-8112
E-mail: katsuji.moriguchi@ccc.co.jp

視察研修先・香川県丸亀市

視察研修項目・丸亀市市民活動センター「マルタス」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等



視察研修先・香川県坂出市

視察研修項目・中心市街地の再生を図る坂出市の「公民連携事業(PFI)」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等



報告書 3

視察研修先・和木町(7月22日)

視察研修項目・和木町と ENEOS の「地域コンソーシアム」について

報告者・小橋 薫

和木町役場 全員協議会室 15:30～17:00

研修項目 「地元の和木町と共に社会貢献～地域コンソーシアム～」

説明 ENEOS (株) 大山氏、阪辻氏、住民サービス課上村氏

官民連携からの社会貢献の取り組みを研修である。ENEOS (株) は誰もが知っている石油会社である。その石油精製から発生する LIB 負極原料で作る「麻里布ニードルコークス」(世界初使用)「エネマリン」で様々な実証実験に取り組んでいる。活動分類としては、水質、低質改善剤・植物発電・教育・展示イベントと取り組んでいる。水質、低質改善剤分野では、「あさり議場再生実証テスト」がある。水質改善によりあさりの生育が大幅に改善されている。将来像としては、「親子へのアサリと環境体験教育」「潮干狩り」「悪臭対策」である。この活動及び科学的なシステムを研修して特に感じたことは本市で活用が可能かどうかである。例えば、下水管の布設替えから菅更生へと今後シフトしていく訳であるが、この腐食対策等も視野に入れることも可能性としては検討できると思う。また、終末処理場での汚泥から肥料を製造している訳だが、悪臭対策にも活用できる公算はあるのではないかと考えるところである。

次に、ニードルコークスとマグネシウムを用いたボルタ電池を応用し植物の光合成で生成したデナプンを土壤中のバクテリアが分解して発生イオンが電流を増加する仕組み(土壌発電)効果の期待として・無電源 24 時間照明・発電した電気の有効利用(充電)がある。

大きく以上の 2 点が今後のまちづくりのポイントとなることになるだろう。特に上記の仕組みは科学的知識が重要である。別紙の参考資料を深読みする事により更に理解が深まると思う。

小さな町にある大手の企業との地域コンソーシアムの取り組みは工業地域の大きな強みである。今後の実証実験の経過が楽しみであり、我が町への転用が可能であれば是非、活用を検討すべきである。

視察研修先・丸亀市(7月23日)
視察研修項目・丸亀市市民活動センター「マルタス」について
報告者・小橋 薫
丸亀市役所及びマルタス 14:00～16:00 研修項目 市民活動センター「マルタス」 説明 地域づくり課東副課長 マルタスセンター長森山氏 副センター長森口氏 担当東副課長より、マルタス設置経緯の説明を受ける。丸亀市は市庁舎建て替えに伴い市民活動センター「マルタス」の建設に至っている。又、庁舎向かいには新たに市民会館の建設も行われている。市民の憩いの場として建設された「マルタス」は、 2階建て1階には、スタ-バックスをはじめ閲覧図書多目的ホール等2階はキッズスペース、学習スペース、貸会議室等があり充実し施設となっている。本市の、エニアスや黄金ふれあいセンター等を合体した規模のような施設であるが、やはり、スタバのブランド力は大きいと感じる。当日は、猛暑の中多くの市民や学生が来場していた。又、キッズスペースに多くの幼児と親御さんが楽しく過ごしている姿が印象的である。この施設での大きな特徴で印象深いのは、無市民活動支援サービスである。選任スタッフによるきめ細やかな相談業務である。本市の市民活動センターも努力していますが、専門知識を有するスタッフがやはり必要不可欠と感じたところである。 土地柄、人口減少、少子高齢化が加速している地方都市に於いてまちづくりの手法を今一度考えさせられると感じたところです。「まるたす」の施設は大変立派でありうらやましい限りですが、本市の今後のスタンスを鑑みれば更に人口増加が進み10万都市規模になったときはこの様な施設も検討する余地があると感じたところである。

視察研修先・坂出市(7月24日)
視察研修項目・中心市街地の再生を図る坂出市の「公民連携事業(PFI)」について
報告者・小橋 薫
坂出市役所 研修項目 「公民連携事業(PFI)」 説明 公民連携課 町川課長補佐 「坂を超える感動」と「坂で出会うまち」へ このキャチフレーズで始まるウォーカブル推進都市を目指して公民連携事業が推進されます。坂出駅前エリアと坂出緩衝緑地エリアの2箇所を対象としたPFI事業。駅前エリアでは、4層吹き抜け、各フロアは半階ずつ上下にずらしたスキップフロア形式を採用。緩和緑地エリアでは、既存樹木の保全と活用による「明るく心地よい緑」への転換を目指している。 この壮大なPFI事業は地方都市では思い切った決断と考えられる所である。隣の町丸亀市に対抗している訳では無いが、過疎化対策、若者の市街流出防止の取り組みが伝わってきます。 本事業の実施設計はこれからであり完成の暁には是非、再度伺いたいものである。総工費も100億を超える事業となる訳であるから成功裏に進めてもらいたいものである。まちづくりの将来像となるモデルケースとなる事を期待したい。

視察研修先・山口県和木町

視察研修項目・和木町と ENEOS による「地域コンソーシアム」について

報告者・川原 光男

1. はじめに

地方創生や脱炭素社会の実現に向けて、官民連携による地域課題の解決が全国的に求められている。和木町においては、ENEOS 株式会社との協働により、「地域コンソーシアム」として多様な取り組みが行われており、産業・行政・学术界の連携が新たな価値を創出している。本報告書では、和木町の事例をもとに、産官学連携の実践と可能性について報告する。

2. 産・官連携の姿

視察では、ENEOS 株式会社 麻里布製油所が、製造工程において発生する残渣「粉コークス」を、麻里布ニードルコークスとして再資源化し活用している事例を確認した。この素材は、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏のリチウムイオン電池の研究において世界で初めて使用されたものであり、電池の高性能化と安定性の両立に大きく貢献した。

この取り組みは、産業界と学术界が連携し革新的な成果を生んだ代表例であり、技術力の高さと共創の可能性を示すものとなっている。

3. 地域コンソーシアムの取り組み

ENEOS 職員・大山氏より、和木町と進めている地域コンソーシアムの内容について説明を受けた。主な取り組みは以下のとおりである。

- 水質・底質改善剤の開発
- 植物発電の研究(ボルタの電池)
- 地域向けの教育・展示イベントの開催

これらの活動は、官民が「共通の目的を持った仲間」として、対等な立場で協力し合いながら展開されており、持続可能な地域づくりに向けた真摯な姿勢が感じられた。ENEOS 側からは、今後もパートナーとしての責任を果たしていく旨の強い決意が示された。

4. 現時点での成果と今後の展望

現段階では、多くの取り組みが研究・開発の初期段階にあるが、水質改善剤や植物発電技術は、将来の環境対策として広く社会に受け入れられる可能性を秘めている。

特に今後は、「産」と「官」の連携に加え、「学」の視点を本格的に取り入れた研究の深化と実用化を目指しており、多方面での展開が期待される事業であると感じた。

5. 考察

これらの高度な取り組みにおいて、和木町の職員が内容を的確に理解し、行政としての役割を見出して主体的にコンソーシアムに参画している姿勢には大きな敬意を表したい。単なる支援にとどまらず、自らが一員として関わる姿勢は、地域行政のあるべき姿を示している。

また、「植物発電」や「水質改善剤(エネマリン)」は、ふるさと納税の返礼品としても活用が検討されており、地域外への発信力の強化にもつながると考えられる。米本町長のリーダーシップと強い意欲も随所に感じられ、町全体で一体となった取り組みであることが印象的であった。

6. おわりに

本視察を通じて、和木町とENEOSによる地域コンソーシアムの実践は、持続可能な地域社会の構築において重要な示唆を与えるものであった。今後は、研究の成果が社会実装される段階へと進展していくことを期待するとともに、本市においてもこうした産官学連携の可能性を積極的に模索していく必要性を強く感じた。

視察研修先・香川県丸亀市

視察研修項目・丸亀市市民活動交流センター「マルタス」について

報告者・川原 光男

1. はじめに

近年、自治体における地域課題の解決や市民活動の促進において、公共施設の役割が多様化している。香川県丸亀市に設置された「市民活動交流センター（愛称：マルタス）」は、市民の活動を支援し、協働の基盤を構築することを目的とした施設である。本報告書では、施設の概要と運営体制、直面する課題や今後の展望について報告する。

2. 施設の構成

丸亀市市民活動交流センター「マルタス」は、「市民活動への参画意欲の醸成」および「協働のさらなる発展」に寄与することを目的とし、条例に基づいて設置された施設である。市の施策の中核機能を担う重要な拠点として位置づけられている。

3. 運営体制

本施設の運営は、以下の体制により行われている。

- ・ 所管部局：丸亀市 地域づくり課
- ・ 指定管理者：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC／蔦屋グループ）
- ・ 指定管理期間：令和 3 年 2 月～令和 8 年 3 月

民間のノウハウを活用した指定管理者制度により、効率的かつ柔軟な運営が行われている点が特徴である。

4. 施設概要と利用状況

- ・ 開館日：令和 3 年 3 月 22 日
- ・ 施設構造：地上 2 階建て、延床面積 2,691.9 m²
- ・ 開館時間：午前 9 時～午後 9 時 30 分（年中無休）
- ・ 累計来館者数：約 80 万 8 千人（令和 3 年開館から現在まで）

非常に規模の大きい施設であり、市民のみならず観光客も含めた多くの来館者に利用されている。

5. 課題と問題点

施設運営における最大の課題は、将来的な人口減少に伴う地域担い手の減少である。市民が「住みよいまち」と感じ続けるためには、地域力の維持が不可欠であり、そのための持続可能な仕組みづくりが求められている。

6. 経営改善への取り組み

この課題への対応として、マルタスでは次のような取り組みが進められている。

- 誰もが立ち寄りやすく、自然と交流が生まれる空間の整備
- 柔軟な運営による地域コミュニティの基盤形成
- 「まちに関わる人を増やし、育てる」という明確なコンセプトのもと、人材育成とアイデアの創出を促進

これらの取り組みは、地域に新たな価値と活力をもたらすものである。

7. 考察

視察を通じて特に印象深かったのは、指定管理者である CCC(蔦屋グループ)の専門性の高さである。空間のデザイン性、市民参加を促す導線設計、イベント運営に至るまで、随所に民間ノウハウが活かされており、公共施設の新たな可能性を感じさせられた。

今後、本市においても、市民活動支援の拠点づくりを進める際の参考となる先進事例として、大いに学ぶべき点が多いと感じた。

8. おわりに

丸亀市の「マルタス」は、単なる施設にとどまらず、市民と地域、行政と民間をつなぐ交流・協働の拠点として、極めて重要な役割を果たしている。今回の視察を通して得た知見は、今後の地域づくりに向けた政策検討の大きな糧となるものであり、継続的に注視していく必要がある。

視察研修先・坂出市

視察研修項目・中心市街地の再生を図る「公民連携事業(PFI)」について

報告者・川原 光男

1. 事業発想の基点

近年進行する人口減少に対して強い危機感を抱き、坂出市ではその対策に向けた検討を開始した。

特に、中高生が放課後の時間を市内ではなく他市で過ごしている実態が調査により判明し、若者にとっての「心地よい場所」が市内に不足していることが課題として浮き彫りとなった。

2. 目指すまちの形

坂出市では、中心市街地の再生を通じて、「坂出らしさ」を感じられる“まちのリビング”の実現を目指している。そこは、年齢・目的・人数にかかわらず様々な人が集い、楽しさや豊かさを共有できるインクルーシブな空間である。

再整備は、「坂出駅前エリア」および「坂出緩衝緑地エリア」を対象とした「坂出駅周辺再整備基本構想」に基づいて進められている。

3. 事業の概要と手法

本事業は、坂出市を「ウォークアブル推進都市」として都市整備を進める「坂出市中心市街地公民連携事業」としてスタートした。

導入された手法は、DBO (Design-Build-Operate) 方式による PFI (民間資金活用による社会資本整備) 事業であり、官が資金調達を担い、民間が設計・建築・運営を一体的に行う形態となっている。

総事業費は 20 年間で約 140 億円に上り、国からは「先導的官民連携事業」として初期費用等の支援が行われている。

また、丸亀市でも実績のある CCC (カルチャ・コンビニエンス・クラブ / 蔦屋グループ) の参入も検討されており、まちづくりのビジョンとして「働くまち」から、「働くまち」と「住むまち」の両立を目指す方向性が示されている。

4. 考察

大規模な都市再生事業を推進するにあたり、大胆な決断がなされたことがうかがえる。

ただし、ハード(施設・空間)とソフト(プログラム・活動)の両面のバランスと連携についての説明が確認できなかった点は今後の注目すべき課題であると感じた。

視察研修先・山口県和木町
視察研修項目・和木町と ENEOS の「地域コンソーシアム」について
報告者・長谷 文子
＊議員個々の考察と見解＊ 1.和木町の概要 恵庭市と和木町とのかかわりは古く、1886（明治 19）年頃に山口県和木町周辺の人々が本市周辺に集団入植したことから始まる。 近年では、1979（昭和 54）年に恵庭市と和木町が姉妹都市提携を結び、様々な交流がされている。 人口 5,650 人、行政面積 10, 56 km²。 ENEOS 麻里布製油所、三井化学（株）のコンビナートを擁する工業の町。 観光資源である蜂が峯総合公園には、恵庭市が寄贈したポニーが元気に来園者を迎えている。 2.事業の概要 ENEOS 麻里布製油所では国の補助金を活用し、SDGS の観点から、石油精製の過程で出る高品質なニードルコークスを利用し、水質改良・植物発電の実証実験をしている。 ①水質改良・・・町内に流れる河川の水質が悪化したため、町民の楽しみであるアサリの生育が悪くなったり、用水路の悪臭がひどかったり、これらの問題を解決するため、ニードルコークスの活性剤を利用することで緩和されないか、また下水道管に使用することで管内に発生する硫化水素を無害化し、管の劣化を防ぐことができないかなどの実証実験中である。 ②植物電池・・・ニードルコークスとマグネシウムを用い、ボルタの電池の要領で、土壌中のバクテリアが分解することで発生するイオンが電流を増加させる仕組み。 電源なしで、土に刺した電気器具が永遠に光をともし続けるもの。 どちらも実験段階であるが、①は数値の推移による実証、②は現物が庁舎内にあり、明るい光を放していた。 3.所見 今後さらに実験を重ね、製品化されることが現実のものになると、この事業がもたらす意義は非常に興味深いし、SDGS の観点からも有意義なものである。 これからの和木町と ENEOS 麻里布製油所のこの取り組みを、大いに期待を込めて注視していきたい。

視察研修先・香川県丸亀市

視察研修項目・丸亀市市民活動センター「マルタス」について

報告者・長谷 文子

＊議員個々の考察と見解＊

1.丸亀市の概要

人口 110,955 人、面積 111.83 km²

古くは丸亀城の城下町として栄え、現在は香川県第 2 の都市。金毘羅参りの土産物として「うたわ」の製造が盛んになり、全国の 9 割を生産している。

2.「マルタス」の概要

- ・ 2021(R3)年開館
- ・ 地上 2 階建て、延べ床面積 2,691.9 m²、市庁舎と渡り廊下で接続
- ・ 9:00～21:30 年中無休
- ・ 指定管理者カルチャーコンビニエンスクラブ (CCC)が運営

3.「マルタス」の設置目的

将来的な人口減少に対応するため、市民にとって住みよいまちであり続けることが課題であり、解決のため市民活動センターを拠点として「協創のまちづくり」で地域の発展に貢献し、市民へ快適な居場所を提供することでまちに関心を持ってもらう人を増やしていくことを目的に設置された。

＊丸亀市の考える人づくりへのステップ

- ①多くの人が集える場所の提供
- ②地域や市民活動への関心を促す
- ③地域のために行動する人を育てる

「マルタス」では、上記ステップの②の工夫として市民や各団体などが自ら企画・運営する事業への支援をすることで市民活動の輪が広がると考え、具体的に子供向け講座の開催や福祉分野と他分野との交流会の開催への支援、高校生のまちづくりへの参画を応援するための企画などの取り組みを実践している。また、これら市民の相談窓口を館内に設置することで、利用を促進させている。

視察研修先・香川坂出市
視察研修項目・中心市街地など活性化公民連携事業について (walkable 推進都市)
報告者・長谷 文子
議員個々の考察と見解 1.坂出市の概要 香川県のほぼ中央に位置する、古くは塩田で栄えていたが、近年は臨海工業地帯を擁する港湾工業都市として発展してきた。瀬戸大橋の架橋や四国横断自動車道の開通を機に瀬戸内地域の要衝としての位置付けとなる。人口 47,617 人、面積 92.46 km²。交通の便が良いため、昼の人口が夜の人口を 1 万人ほど上回る。 2.事業の概要 市の特徴である夜間人口を増やす（住んでもらう）にはどうすれば良いかとの課題を解決するため、一般市民と若者（主に市内 4 校の高校生）にそれぞれアンケートを実施した結果、坂出市の足りないところは、①買い物が不便②子どもの遊ぶ場所や憩いの場所が少ない③高校生は放課後坂出で過ごすことがないなどの結果を受け、駅周辺並びに市中心部と港湾部の境目にある約 50m×2 km の広さを有する緩衝緑地帯の再開発の事業計画の必要性に至る。2 つの事業総予算 140 億円。 PFI 法に基づき民間事業者と連携するに当たり、特色ある取り組みとして「仮公募」制を実施。これは、民間事業者と事前の対話の場を作り、良い提案をした事業者には公募の際にインセンティブを付与するもので、15 社が参加した。これは、国の評価も高かった。 坂出市の考える walkable city とは、市内に点在している病院や商店などの拠点を回遊してもらうことが狙い。 ・駅周辺再整備・・図書機能の充実（これまで市の図書館機能を担ってきたところが老朽化で廃館するため）により、これまでの図書館の使命である「借りる」から「過ごす」場所への方向転換をすることで、滞在時間が長くなり、賑わいの創出を目指す。管理運営を丸亀市と同じ CCC が担う。 ・緩衝緑地帯整備・・市民とともにあった樹木を可能な限り残しながらも見通しの良い、明るい空間で人々が集い楽しめるエリアとして、カフェやコミュニティスペースを配する計画。 供用開始を。R10 年秋としている。

開館当初からの利用実績は以下の通り

- ・来館者数、R4年 76.8 万人、R5年 79.6 万人、R6年 80.8 万人
- ・市民活動開催件数 R4年 748 件、R5年 951 件、R6年 1.095 件
- ・自主企画件数 R4年 196 件、R5年 201 件、R6年 206 件
- ・市民活動参加者数 R4年 8.584 人、R5年 10.214 人、R6年 11.712 人と、年々増加している。

4.所見

木材を基調とした広々とした「マルタス」には、館内随所に年齢を問わず自由な時間を過ごす市民の姿があった。指定管理者である CCC は、その前身が書店であることもあり、多くの書物が至る所にあり、好みの本を読んでいる人、パソコンを持ち込み勉強している学生、子供専用空間で子どもが遊んでいる間思い思いの時間を過ごしている保護者など、まさに全市民の憩いの場の様相を呈していた。今後のステップ③の地域の人がどれだけ育つかに期待をしつつ、本市に目を向けると「えにあす」がこの縮小版であるとの認識から、見習うところを取り入れていければとの思いを強く持った視察であった。

3. 所見

駅を出ると右手にホロで覆った巨大な工事中の建物、左手に広大な空き地が目に見え込んできた。右手の工事中的のものはイオンの建て替え、左手が今回の視察である中心市街地の再開発事業予定地とのことで、R10 年秋の完成後はこの景色が全く別なものになる。計画書だけ見ると、斬新なデザインの建物で、内部はゆったりと過ごせる空間が広がり、まさに市民の憩いの場になるであろうことは想像できる。

この 2 カ所の整備計画で着目すべき点は、将来を担う若者が参加しているところだと思う。

これからのまちづくりには不可欠かつ重要な点で、坂出市も丸亀市と同様にこの場所に放課後や長期の休暇には高校生の姿が多く見られることだろう。また、全市民が待ち望んでいることはゆるぎないものと確信した。

恵庭市の今後のまちづくりに大いに参考にすべき点の多い、実りのある視察であった。

視察研修先・山口県和木町

視察研修項目・和木町と ENEOS の「地域コンソーシアム」について

報告者・早坂 政芳

和木町は山口県の東端に位置し、人口は約 6 千人、面積は約 10 平方 k m で恵庭市の 30 分の 1 にあたる町ですが、ENEOS 株式会社及び三井石油化学工業株式会社のある石油化学コンビナートの町となり、これらの裕福な財政を背景として、鉢ヶ峰総合公園を中心とした一大レジャーランドを持つ町です。明治 19 年頃に和木村から、幾人もの人たちが恵庭に開拓に移住し、恵庭の発展の基礎を作ってくれたとのことで、昭和 54 年に恵庭市と姉妹都市縁組が結ばれました。また岩国市とも隣接しています。

今回は ENEOS 株式会社の工学博士の大山氏より、「地元の和木町とともに社会貢献」という表題で、説明を受けました。会社でコークスや鉄分、竹炭等でまんじゅう程の固形部を作り、それを海や用水路等にいれることで、鉄イオンをだすことで水質を改善し、海中の藻を成長させたり、アサリを大きく成長させたり、用水路の悪臭を減らしたり、下水道管の劣化を防いだり、植物発電までも実験で成功させているとのことでした。地中にコークスとマグネシウムを設置して植物の光合成でできたデンプンを土中のバクテリアが分解し、その時の発生イオンで電流をつくるものです。無電源で 24 時間照明が可能で、スマホの充電も出来るというノーベル賞なみの事業をやっているとのこと、大変驚きました。

広島大学の客員教授もされているとのことでした。

視察研修先・香川県丸亀市
視察研修項目・丸亀市市民活動センターの「マルタス」について
報告者・早坂 政芳
丸亀市は香川県の海岸線側ほぼ中央部に位置し、人口は約 11 万人、面積は約 111 平方 k m で恵庭市の約 3 分の 1 にあたる都市で、生駒氏が 5 年がかりで建てたという丸亀城を持っており、海岸の埋め立て地は造船等の工業団地となっています。丸亀城は高さ日本一の石垣を持つ築 400 年の名城で、石垣の積み方の美しさにも注目されている城です。 市民活動センターの「マルタス」は、市役所に隣接する 2 階建ての施設で、その使命は人づくりと謳っており、丸亀の未来を担う人材が育つ環境を作るとあります。また「みんなのセンター」いつでも誰でも様々な目的で利用できる、「出会えるセンター」新しい発見や気づきをえることができる、「育つセンター」になりたい自分に一步近づくことが出来るというものをビジョンとしているものです。マルタスは新しい発見や気づきに満ちています。オープンな空間で開催される市民による活動、7 千冊を超える厳選された本の閲覧、友人や家族との会話が弾む居心地の良いカフェ、子どもとのふれあいを楽しむことのできるキッズスペース等が完備されています。またマルタスは一步先に踏み出すきっかけもあり、集中して勉強に専念できる快適な学習の場、悩みや相談事を親身になって聞いてくれるスタッフの常駐等と 365 日開館して、入館料及び駐車料金が無料の香川県最大級のブックカフェであり、空調の効いた室内で好きな飲み物を飲みながら、館内の 300 席でゆったりとした時間を過ごせる夢のような施設でした。 また、令和 3 年の完成時には、館名を全国的に募集し、約 670 点の中から現在の「マルタス」と名付けたとのこと。丸亀市役所も約 5 年前に新築しており、隣には市民文化会館を現在建築中と人口 11 万人の都市にしては、その経済力にびっくりさせられました。先日全国都道府県で魅力度が、全国 1 位が香川県となったとのニュースもあり、讃岐うどんが安く美味しいとか、他の様々な魅力があると思われませんが、恵庭市の「えにあす」の 200 倍くらいの「マルタス」の施設に圧倒されました。近くに中学校もあることから、視察にいった午後の時間にたくさんの中学生、高校生等が恵まれた環境で勉強している姿を見て、恵庭市の学生は負けているのではないかと心配になりました。市民主体のイベントも多く、たくさんの人が楽しく文化的芸術的活動を行ったり、あるいはゆっくりと新聞を読んだり老若男女が施設を活用しておりました。恵庭市にも将来、このような施設を作りたいと強く思いました。

報告書 3

視察研修先・香川県坂出市

視察研修項目・中心市街地の再生を図る坂出市の「公民連携事業（PFI）」について

報告者・早坂 政芳

坂出市は香川県の中央部に位置し、人口は約 4 万 7 千人、面積は約 90 平方 k m で恵庭市の約 3 分の 1 にあたる都市で、瀬戸大橋が架かる四国の玄関口となっています。西側は丸亀市と隣接しており、瀬戸内海に浮かぶ島々や山々、湖を持ち、自然が豊かな都市です。

坂出駅周辺再整備計画で、2028 年完成を目指して駅前に 4 階建ての複合施設建設を予定しており、図書館やキッズスペース、緑豊かな広場の設置等が計画されているとのことでした。丸亀市の「マルタス」のような市民の交流施設を目指しているとのことでした。

更に坂出緩衝緑地エリアと称する坂出駅北側約 2 k m の既存の樹木地帯を活用して、市民が集まったり、開放感のあるコミュニティ施設も計画し、坂出市中心市街地活性化事業を公民連携して作ってゆくとの計画でした。

特に駅前拠点施設は、4 階建てで中央には 4 層の吹き抜けを設けて、各フロアは半階ずつ上下にずらしたスキップフロア形式で「坂」の体験と階層間に視覚的なつながりを生み出して解放的で一体感のある空間にして、機能が複合化することによる魅力を最大限に発揮するという素晴らしい施設をつくるというものでした。町の魅力に出会う場所、学びに出会う場所、子どもの成長にであう場所としてそれぞれの施設を配置して、市民全員が楽しさと豊かさを享受する複合施設を作るというものでした。

視察研修先・山口県和木町
視察研修項目・和木町と ENEOS の「地域コンソーシアム」について
報告者・矢野浩章
【視察先の概要】 ○山口県玖珂郡和木町は、広島県大竹市に隣接する瀬戸内海沿岸の町で、古くから石油精製産業が発展し、ENEOS 株式会社麻里布製油所が町の経済と雇用を支える中心的な存在となっている。恵庭市とは姉妹都市として多くの交流がある。 人口：5,650 人（令和 7 年 7 月現在） 面積：10.58km² 【視察の目的】 ○本視察の主な目的は、ENEOS 株式会社と和木町が連携して取り組んでいる「地域コンソーシアム」について理解を深めることでした。特に、企業と自治体がどのように協力し、地域課題の解決や活性化を図っているのか、その具体的な手法や効果、そして恵庭市において応用できる可能性を探ることを目的としました。 【和木町との取り組み】 和木町と ENEOS 麻里布製油所は、地域経済の持続的な発展と住民の生活向上を目指し、強固なパートナーシップを築いています。その中心的な取り組みが「地域コンソーシアム」です。 ○事業内容: 和木町と ENEOS は、製油所の敷地の一部を活用し、新エネルギー事業や環境保全事業を共同で展開しています。 ※財源は山口県の産業技術センターの委託金を活用している 【所見】 今回の視察を通じて、和木町と ENEOS の取り組みは、企業と自治体が Win-Win の関係を築き、地域課題を解決していく上で非常に優れたモデルであると感じました。 また、ENEOS の活動内容について発明としての実験内容を直接聞くことで、最新の実証実験と未来に向けた取組を勉強することが出来ました。“ニードルコークス”を活用した植物発電や“エネマリン”を下水管劣化対策に活用するなど、調査研究しながら大発明とされる内容の説明に恵庭市でも実験現場としての将来性を繋げて頂きたいと感じました。 この様な取り組みは恵庭市においても、市内企業と連携した地域活性化は喫緊の課題です。和木町の事例は、企業が持つ技術や資本を、単なる寄付ではなく、共同事業という形で地域に還元していく可能性を示唆しています。 姉妹都市の流れから将来は ENEOS の取り組みを恵庭市のさらなる発展につなげられる機会が出来る事を期待しています。

報告書 3-2

視察研修先・香川県丸亀市
視察研修項目・丸亀市市民活動センター「マルタス」について
報告者・矢野浩章
【視察先の概要】 丸亀市市民活動センター「マルタス」は、丸亀城のお堀に面した市の中心部に位置し、旧丸亀市立中央図書館を改修して2021年4月にオープンした。「ひと・もの・こと」を繋ぐ市民活動の拠点として、多様な市民活動の活性化を目的としている。施設内には、多目的ホール、会議室、コワーキングスペース、キッチンスタジオ、ライブラリーなどが整備されており、幅広い用途に対応できる。 人口約 107,448 人（令和7年7月現在） 面積： 111.83km² 【視察の目的】 本視察の目的は、恵庭市の市民活動センターのあり方を検討する上で、先進事例である丸亀市市民活動センター「マルタス」の運営ノウハウや効果的な市民参画の仕組みについて学ぶことである。特に以下の点に焦点を当てた。 ○施設の運営体制と管理方法：指定管理者制度の導入状況や、職員の配置、活動支援の方法。 ○市民活動への支援策：市民が活動しやすい環境づくりや、交流を促進する企画、イベントの実施状況。 ○財政的な持続可能性：利用料金の設定や、自主事業による収益確保の取り組み。 【市民活動センターの運用実績】 「マルタス」は、市民のニーズに応じた柔軟な運用が特徴であり、オープン以来、高い利用率を維持している。 利用者数：開館以来の延べ利用者数は、当初の想定を上回るペースで推移している。 指定管理者：CCC（カルチャーコンビニエンスクラブ）が全国的なノウハウを活用して指定管理者事業の運営を幅広く行っていた。 市民活動団体登録数：約 200 団体が登録しており、地域課題の解決に向けた多様なプロジェクトが生まれている。

視察研修先・香川県坂出市
視察研修項目・中心市街地の再生を図る坂出市の「公民連携事業(PFI)」について
報告者・矢野浩章
【視察先の概要】 香川県坂出市は、瀬戸内海に面し、瀬戸大橋の玄関口として発展してきた都市です。近年、少子高齢化や産業構造の変化に伴い、中心市街地の空洞化が課題となっていました。この課題解決のため、「公民連携事業 (PFI)」を導入し、中心市街地の再生を図っています。視察対象となったのは、この PFI 事業によって整備された複合施設などです。 人口約 47,417 人 (令和 7 年 7 月現在) 面積: 92.46km² 【視察の目的】 今回の視察の目的は、恵庭市の中心市街地活性化の参考とするため、坂出市が取り組む公民連携事業、特に PFI (Private Finance Initiative) について、その導入経緯や効果、課題について学ぶことです。具体的には、事業の仕組み、官民それぞれの役割分担、そして事業の長期的な持続可能性について理解を深めることを目指しました。 【公民連携事業 (PFI) の長所と短所】 ～長所～ ○効率的な事業運営: 民間のノウハウやアイデアを活用することで、公共サービスの質が向上し、事業コストの削減が期待できます。 ○財政負担の平準化: 事業に必要な初期費用を民間が調達するため、自治体は一括で大きな財政負担を抱える必要がなく、長期にわたる支払いで財政負担を平準化できます。 ○リスクの分散: 施設の建設や維持管理、運営に関わるリスクの一部を民間事業者に移転できます。 ～短所～ △事業内容の柔軟性低下: 契約期間が長期にわたるため、社会情勢の変化や市民ニーズの変化に合わせた事業内容の変更が難しくなる場合があります。 △複雑な手続き: 契約内容が多岐にわたるため、事業者の選定や契約交渉に時間と専門的な知識が必要となります。 △民間事業者の倒産リスク: 契約期間中に民間事業者が倒産した場合、サービスの継続が困難になるリスクがあります。

イベント実績：年間 200 件以上の自主企画事業が開催されており、マルシェやワークショップ、講座など、市民が主体となった企画が多い。特に、キッチンスタジオを活用した料理教室や、工夫を凝らしたキッズスペースも人気を博している。

特色ある取り組み：

「マルタス大学」：市民が講師となり、専門的な知識やスキルを教え合うユニークなプログラム。これにより、市民同士の交流が活発化し、新たな活動が生まれるきっかけとなっている。

コワーキングスペースの活用：個人事業主やフリーランスの利用が増加しており、多様な働き方を支援する拠点としても機能している。

【所見】

今回の視察を通じて、「マルタス」が単なる貸館施設ではなく、市民一人ひとりの「やりたい」を形にするための伴走型支援を行っている点が、成功の鍵であると感じた。特に、職員が市民活動のコーディネーターとして機能していることは、今後の恵庭市における市民活動センターの運営を考える上で非常に参考になる。

恵庭市においても、市民の自主的な活動を促すためには、ハード面だけでなく、ソフト面での支援体制を強化する必要がある。例えば、市民活動に関する相談窓口を充実させたり、市民が主体的に企画・運営できるような小規模なイベントを定期的を開催したりすることで、市民活動への関心を高めることができるだろう。

また、財源の確保についても、利用料金の柔軟な設定や、民間企業との連携による協賛金・寄付の募集など、多角的な視点での検討が必要である。「マルタス」の成功事例を参考にしながら、恵庭市の地域特性に合わせた市民活動センターのあり方を、市民と共に議論していくことが重要である。

視察研修先・山口県和木町

視察研修項目・和木町と ENEOS の「地域コンソーシアム」について

報告者・三上 まどか

＊議員個々の考察と見解＊

和木町には「ENEOS(株)麻里布製油所」があり、豊かな自然環境を守るための社会貢献活動としてコンソーシアムを組み以下の取り組みをしている。一つは、水質・底質改善として二価の鉄イオンを生成し、川や海・用水路に補給することで環境が改善し、藻場の成長を促進につながり、プランクトンが増加し、魚貝類が増加するメカニズムとなっている。

この手法を用いて、アサリ漁場再生実証テストや用水路の悪臭対策、藻場創造実証テスト、下水管劣化対策実証テストを行った結果、2024 年度はアサリが一回り大きく成長したり、臭気強度と硫化物イオン濃度の低下など実績がでた。

二つ目にはニードルコークスとマグネシウムを用いたボルタの電池を応用し植物発電による無電源照明の実証化や基礎研究などに活動を広げている。土壌中のバクテリアが分解して発生イオンが電流を増加する仕組みだが、土壌発電には無電源で 24 時間照明出来ることや蓄電、そして土壌からのメタン発生抑制が期待されており、現在は町内製油所や町役所、東京都渋谷ヒカリエのデッキにも設置されている。

この取り組みから生まれた生成物を『エネマリン』と呼び、次は下水道管劣化対策として、①硫化水素の発生削減と無害化、②ヘドロの分解による堆積物の減少、③ヘドロが分解して発生するメタンを減少、以上 3 点の視点から試作品を下水道管に設置し実証実験をしている。

そして教育の一環として体験教育や無電源照明の鑑賞など小中学生や住民への環境教育に繋げている。

このような環境活動は ENEOS のカーボンニュートラル基本計画のもと行われているが、和木町とコンソーシアムを組むことで更に実証が進み、成功事例が全国各地に広がれば日本の豊かな自然環境を守る素晴らしい取り組みであり、企業の力が町の活力となる好事例で大変参考になった。

【所見】

今回の坂出市視察で得られた知見は、恵庭市の中心市街地活性化策を検討する上で非常に有益でした。坂出市では、老朽化した公共施設の再整備と中心市街地活性化という二つの課題を PFI という手法で同時に解決しようとしており、その複合的な取り組みは大変参考になります。

特に、民間の資本とノウハウを最大限に活用し、行政の財政負担を抑えつつ、質の高い公共サービスを提供している点は高く評価できます。しかし、長期契約に伴う事業の柔軟性や、民間事業者の選定・管理にかかるコストなど、導入にあたっての課題も明確になりました。

恵庭市において公民連携事業を導入する際には、坂出市の事例を参考に、以下の点を慎重に検討する必要があります。

事業の目的と範囲の明確化: 何を解決したいのか、どの範囲で民間と連携するのかを明確にすることが重要です。

リスク評価と対策: 民間事業者の倒産や、契約変更のリスクなど、想定されるリスクを事前に評価し、対策を講じる必要があります。

長期的な視点での事業評価: 事業開始後も、定期的に効果を検証し、市民の満足度向上に繋がっているかを確認する体制を構築することが不可欠です。

恵庭市が抱える課題に対し、公民連携事業は一つの有力な選択肢となり得ますが、その導入には慎重な検討と計画が求められます。坂出市の事例を参考に、今後は恵庭市独自の最適なモデルを構築していく必要があると強く感じました。

視察研修先・香川県丸亀市
視察研修項目・丸亀市市民活動交流センター「マルタス」について
報告者・三上 まどか
＊議員個々の考察と見解＊ 「マルタス」は市民公募からネーミングが決定され、丸亀のマルと亀の英語トータスを組み合わせた愛称として市民に親しまれ、多くの人が利用するこの場所が丸亀の街にも、またこの場を訪れる人にも、何かプラスになるように、何かできること「○」を積み重ねる「＋」場所にという思いを込めてつけられたと由来を伺ったときに、市の感性の高さがとても印象的だった。マルタスに限らず、市や観光協会から発行されている広報物やインフォメーションガイドのデザイン性にもその感性が表れており、令和の新しいニーズにマッチしていた。 施設は、とにかく解放感あふれオープンラウンジやカウンター、貸会議室もガラス壁で仕切られておらず、それぞれの空間は独立しているのにゆったりとくつろげる。学習スペースもプライベートスペースが広くゆとりがあり図書との融合も配置もよく考えられている。 特にキッズスペースにおいては、丸亀市を一望できる丸亀城がすぐそこに見渡せる設計になっており、飲食街からも市の中心からも近いため、晩御飯後でも親子で楽しめるスペースという観点から21時まで開館しているという点には正直驚いた。家族の形や市民ニーズを捉えた素晴らしい取り組みにただただ感動した。 本市の、緑と語らいの広場「えにあす」もまだ価値を見出せるのではないかと比較参考になった施設だった。

視察研修先・香川県坂出市
視察研修項目・中心市街地の再生を図る坂出市の「公民連携事業(PFI)」について
報告者・三上 まどか
議員個々の考察と見解 坂出市は『坂を越える感動と、坂で出会うまちへ』のキャッチコピーのもと中心市街地再生を目指して、通過するまちから人が集まるまちへ公共、民間が協力・連携して再整備を行っている。 エリアは坂出駅前エリアと坂出緩衝緑地エリアに大きく2か所として、それぞれの魅力を最大限に生かす取り組みで、市民の交流促進、そして「歩いて楽しいまち」の中心となることを目指している。 市はこの再整備事業の着手において、前提の課題として次のアンケートをとった。人口約47,000人の市内に高校が4校もあり、市外からの通学も多いのだが、高校生アンケートにて「市内高校生が放課後に過ごす場所はどこですか？」の問いに対する結果は①市内居住・市内高校②市内居住・市外高校、①②共に80%の学生は市外で過ごし、③市内居住・市内高校の③ですら33%の学生が放課後をわざわざ市外で過ごすほど、【市内に居場所がない】という結果がでたという話がとても興味深かった。 確かに、坂出市駅前は四国の入口ともいえる駅にもかかわらず、人が集うような施設はなく閑散としている印象だった。やはり中心市街地再生には駅前に市民が心地よく過ごせる「市民の居場所」づくりは必須で、それは本市にも同様なことが考えられるであろう。 坂出市では、この再整備事業をきっかけに市民のまちづくりへの意識醸成のため「さかいで未来会議」高校生ワークショップや市民ワークショップを開催したり、「チャレンジショップ運営事業」を実施し起業のハードルを下げたポップアップショップなど起業支援事業を実施しておりまちの活性化がますます進む事例は、本市もおおいに見習うべき点である。 この事業は広報もYouTubeチャンネルで発信したり、デジタルサイネージを上手に活用することで市民の気運も高まっているように感じた。施設のデザインもこだわりが見られ感性高まるものであったが、今後まちの未来を担う若い世代が、まちに愛着を持ち、ここに住みたいと思うまちづくりの参考になるPFI事業に私自身も心躍り、何より説明し案内いただいた市職員の方が心からワクワクし楽しそうな姿勢にまちの魅力を感じた視察となった。